

幼児の模倣と成長における「手作り日本人形」の寄与

駒井美智子*¹・中島 範*¹・浅井恭子*²

*1 東京福祉大学 短期大学部(伊勢崎キャンパス)

〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1

*2 東京福祉大学 教育学部(名古屋キャンパス)

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-13-32

(2011年5月11日受付、2011年7月7日受理)

抄録: 本研究において我々は、筆者の一人(中島)が以前に制作を提案した「手作り日本人形」を用い、それを使った幼児の人形遊びにおける *Leaning the Best* および模倣の合理性、保育における有効性、日本人としてのアイデンティティの形成の可能性について、2ヶ所の保育園(Y県I保育園、A県K保育園)にて1ヶ月に渡る観察から考察した。本研究結果は、保育の中に「手作り日本人形」を導入することが、幼児における保育者の模倣と成長に寄与することを示唆している。(別冊請求先: 駒井美智子)

キーワード: 手作り日本人形、模倣の合理性、人的環境、幼児保育、保育教材、情緒の安定、*Leaning the Best*

緒言

近年、育児期間の早期にある女性就労者が増加する中、保育人口が急増している。子どもが最初に出会う先生が保育者である。しかし、子どもは保育者を選ぶことは出来ないため、保育者は乳幼児に対して、家庭と変わらない情緒の安定を持続させるために保育教材を用いて保育活動や保育内容を選択していく必要がある(今川, 1989)。そのため、保育活動で用いる保育教材は、乳幼児に情緒の安定をもたらす、保育者との信頼関係を発展させていくものでなければならない。また、子どもは遊びを通して、保育者の行動を模倣し、幼児自身を成長の方向へと導いて行く。すなわち、保育者の行動が身近なお手本となり、社会で生きていくために必要な行動様式を学んでいくのである。このように、保育者の全人格が子どもの発達・成長に大きく影響を及ぼすことを思うと、保育者は子どもにとってプラスの人的環境でなければならないし、人格形成の最も大切な基礎を創る時期が乳幼児期であることを、責任を持って意識しなければならない。

子どもの1日の生活はすべて遊びであり、遊ぶことによって発達・成長するのであるから、その人的環境や物的環境は豊かな環境であることが望ましい。子どもにとっての遊びは情緒の安定をもたらす、すこやかな成長を育む大

切な領域なので、保育者は適切な保育活動・保育内容・保育援助、支援、管理など十分な配慮により子どもを主体的・自発的に関わる支援や援助をしながら遊びを広げていくように対応することが大切である(駒井, 2009)。保育教材を媒体として乳児と保育者の間にはあたたかい愛情と信頼関係と親密な関係も生まれることが期待される。保育者は母親に代わる養育者でもあるわけで、子どもの情緒不安定な時にこそ、幼児にとって最も適切な教材を提供することが必要である。その媒体となるものが手作りであり、かつ日本文化を代表する日本人形となると愛着はさらに深まるものと思われる。

筆者の一人(中島)は、日本人形を手作りで作成するにあたり、布を1枚1枚吟味している。そこで、本研究は、手作りの日本人形が保育現場において「模倣あそび」に利用され、1・2歳児の情緒の安定や学習に繋がるのではないかとの仮説を、Casson (1997)の指摘する「模倣の合理性」と対応づけて検討することにある。

研究対象と方法

1. 研究対象

本研究における対象は、Y県I保育園の1歳1カ月～2歳10カ月の10名と、A県K保育園の1歳児1カ月～2歳児11

カ月の12名で、いずれも保護者が昼間労働することを常態としていること、に該当するものである。また、母親による早朝保育・延長保育の希望があれば受け付け、中には10時間保育児もあった。

2. 手作り日本人形の制作

「手作り日本人形」は、著者の1人(中島)が、絹の絞り染めの布1枚1枚を吟味して作った着物を着せたもので、日本文化を代表するものである。人形の大きさは、幼児の身体的発達に合わせ、以下の手順で作成された。

1) 材料

- ①人形の本体: ビロード地の布(ベージュ色)、髪の毛の毛糸(黒)、足袋用の布(白)の綿。
- ②人形の服: 有松絞りの布、西陣織(帯)、てがら(帯あげ用)、紐(帯締め用として使用)、裏地(下襦袢の襟)

2) 人形の体の製作

- ①布に型紙(図1)を写し、裁断する。
- ②綿入れ口を残し、縫製する。
- ③人形の形に縫ったものに綿を入れる。
- ④形を整え綿がはみ出さないように綿入れ部分を縫う。

⑤手・足をつけ頭の毛は毛糸でつけ、顔を書き入れる。

3) 下着の製作

- ①布に下着の型紙を写し、裁断する。
- ②裁断した布に縫製する線を書き入れる。
- ③縫い線に沿ってミシンをかける。下着の両足部分の裾にはレースを縫い付ける。
- ④下着の上部にゴムを通す。

4) 人形に着せる服の製作と着装

- ①用布に型紙(図2)を写し、裁断する。
- ②裁断して布に縫い線や縫い代をつけ、余分な部分は裁ち落とす。
- ③縫製する。
 - ・前身ごろと後ろ身ごろを中表にして背を縫い合わせる。
 - ・左右の前身ごろにおくみを縫い、縫い代の始末をする。
 - ・襟を縫う。
 - ・袖つける。
 - ・前後の脇を縫う。
 - ・裾の始末をする。
 - ・帯をつくる。

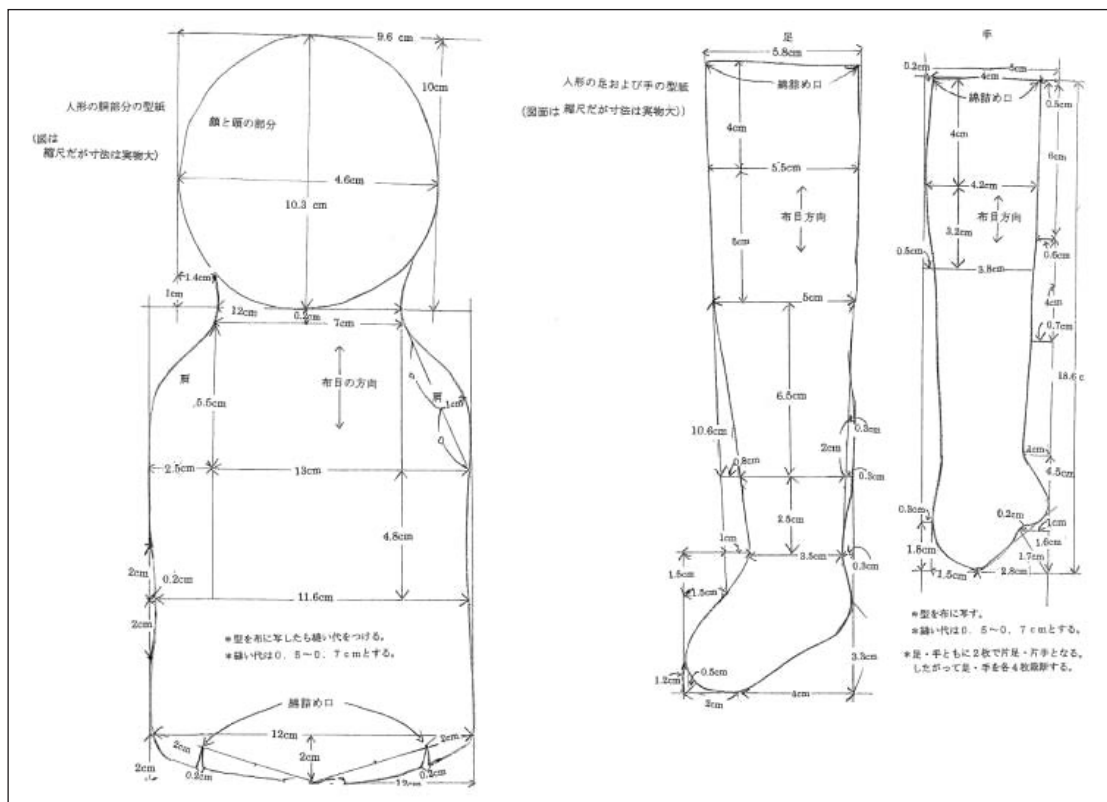


図1. 人形の体の型紙

④装着

- ・人形に下着をはかせる。
- ・仕立てた着物を着せる。
- ・帯を締め着付けをする。
- ・足袋を履かせる。

3. 保育所実践の方法・手続き

調査は、2カ所①保育園において、2011年1月20日～2月20日(1カ月)に実施した。

データは、自由保育時間のAm 8:00～Am 10:00およびPm 4:00～Pm 6:00における保育者の観察記録および

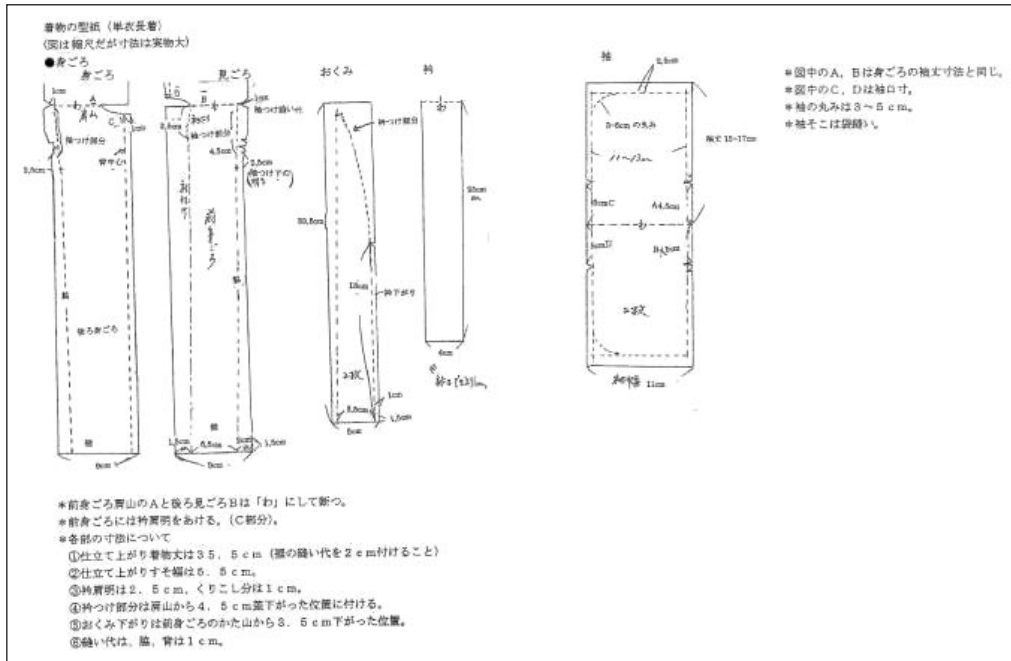


図2a. 着物の型紙(a)

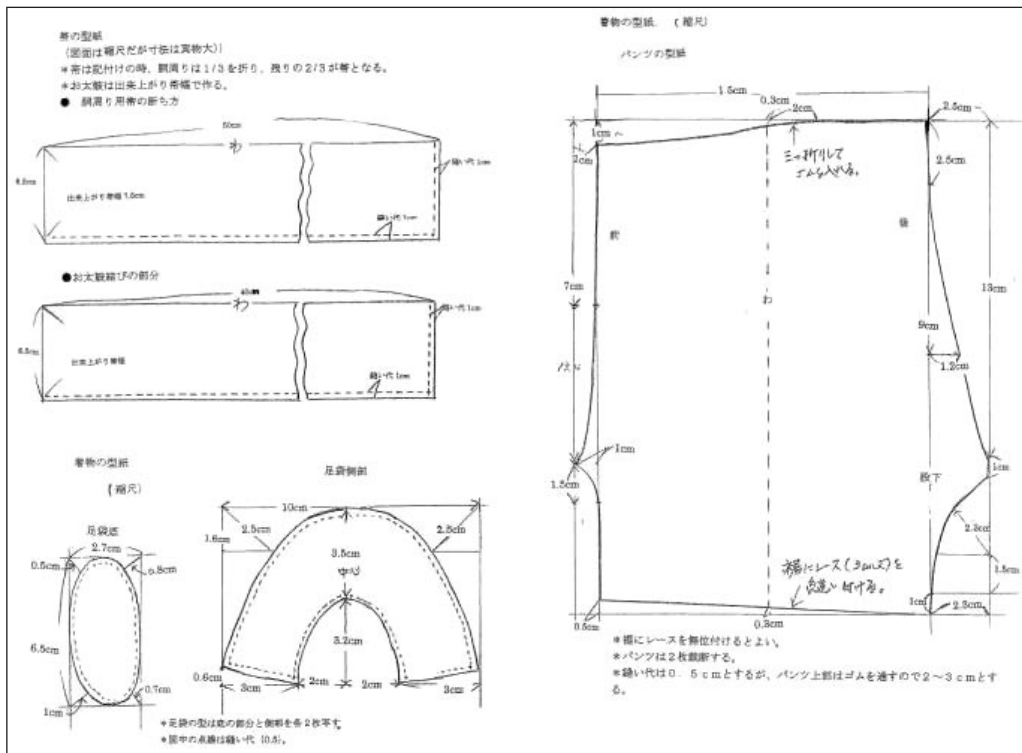


図2b. 帯(左)と着物(右)の型紙(b)

ヒアリングによって収集した。

なお、本研究の目的、ヒアリングの方法、観察記録、写真および得られた個人情報とは本研究のみに利用すること、および個人情報の保護について説明し、協力の同意を得た。

結果

1. 事例1(Y県I保育園における保育士の記録)

朝のお集まりの際に、保育士が『お友達を連れてきたよ』と人形を抱いて登場し、子どもたちに紹介する。保育士が『大事に仲良くしてあげてね』と伝えると、子どもたちは嬉しそうにうなずき、その後、コーナー遊びを始めた。

2～3名のグループが特に人形に興味を示して積極的に遊び出し、保育士と同じように抱っこしたり、スプーンを使って『あ～ん』と言って食べさせてあげ、『おいしいね』という(写真1)。保育士が『お人形さん笑ってるね』と言うと、『おいしいんだね』と、表情にも関心を寄せていた。人形と一緒に遊ぶ中で、まるで日頃の保育士がしている世話を再現しているように思えた。

積極的に遊んでいる子どもの周りで見えていた他の子どもたちも、『赤ちゃん?』、『ご飯食べてるの?』と気にしている様子で、時間を経て友達の真似をして人形を抱く姿も見られた。その後、人形を寝かしてブロックを歯ブラシに見立てて歯みがきをしてあげたりする姿や『お人形さん、おんぶしたい』とおんぶする姿も見られた(写真2)。また、人形が寝たままになっていたの、保育士が『お人形さんがあんな所で寝るね』と言うと、大事そうに抱き上げ、あやし遊びをする姿も見られた。

保育士が一番感じたことは、今まで使っていたぬいぐるみでの遊びとの差であった。日本人形は子どもにとっても親しみやすく、人とかかわるように、大事に遊ぶ姿が見られた。また、人形は抱っこやおんぶに対しても馴染みやすく、体に心地良くでき、子どもの表情も柔らかくなる感じがした。



写真1. お口あ～ん、おいしいね

2. 事例2(A県K保育園における保育士の記録)

保育室のコーナーに日本人形を置く。『かわいいね』と着物を着た人形に興味を示し、七五三で着物を着たばかりの子どももいたので、『〇〇と同じ。着物きたよ。』と親しみを持って遊び出す子どもがいた。人形を縦抱きしたり、保育士が横抱きするのを見て真似したりし、『眠たいんだって』と優しく体を左右に揺らす姿も見られた。保育士が赤ちゃんを寝かしつける時に横抱きする事を見ていたからだろうか、と感心した。また、一人が人形を抱っこし、もう一人がご飯を食べさせてあげるなど、子ども同士が協同して遊ぶ姿が多く見られた。



写真2. お人形さんおんぶしたい



写真3. ねんねしようね



写真4. 大丈夫?

保育士が布団と毛布を用意すると、早速布団に人形を3体寝かして毛布を掛け、横に座って『ねんねしようね』と人形体を優しくトントンし(写真3)、少し経つと布団にそっと入り、添い寝しながら寝かしつける姿が見られた。日頃のお昼寝の様子を思い起こすようであり、子ども自身も気持ち落ち着き安心して見えるように見えた。

人形に名前がないので名前をつけることになった。子どもたちが考えた名前は『ほっぺちゃん・みみちゃん・こっこちゃん』で、何とも子どもの身近で親しみのある名前となった。本当に小さな友達をお世話するように優しくかわわり、『大丈夫?』(写真4)と人形を気遣う姿も見られ子どもたちの優しい気持ちが伝わってきた。人形と遊ぶ姿やかかわり方を見ていると、日頃の保育士の言動を良く見ていくことがわかり、保育士が思いやりの心で子どもたちとかかわっていくことの大切さを改めて実感した。

3. 「手作り日本人形」を使用した遊び方

1歳児については、「抱っこ」、「ねんね」、「とんとん」など、接触・スキンシップあそびとしての活用が多くみられた。

2歳児については、基本的な生活習慣である食事と関連する「パイパイ飲もうね」、「これ食べないといけませんよ」などが多くみられた。また、言葉かけとして「泣かないの」、「いい子ね」、「わかった・わかった」などが多かった。

さらに、1歳児・2歳児全体的に、基本的な生活習慣の食事・睡眠・清潔・排泄などとの関係が深い「いっぱい食べてね」、「さあ〜ねんねしましょう」、「お手はきちんと洗って」、「おしっこしてない」、「ち〜ち出ましたか」、「お返事は……」など、保育者としての言動もみられた。

考察

保育園に通う幼児にとって、主として育てる大人(母親)の不在は情緒不安定になる。このさみしさを人的環境と物的環境で補うのが、質の高い保育士と温かさのある教材である。本研究で使用したのは手作り日本人形であった。手作り日本人形に触れることで、情緒が安定し人形に語りかけることでさみしさをまぎらわすことも理解できる。

心身の発達段階においては、1歳半児〜2歳児が遊ぶ遊びには、人形や動物ぬいぐるみなどを抱いたり、人形に話かけたり、人形をおんぶしたりする姿がある。この時期は、1歳半になると感覚や手足の活動、発語も盛んになり、協応動作がしだいに発達してきてよく動きまわる時期である。何でも自分でやろうとする行動がみられ、信頼関係が繋がっている保育士と一緒に遊ぶことを大変喜ぶ時期でもあ

る。保育園における対人関係は担当保育士との関係を中心に発展していくので、この幼児期の対人関係を広げていくためには、先ず保育士との温かい愛と信頼関係が成り立っていくのが基礎・基本である。

事例1・2が示すように、1歳児の遊びの特徴として「まねっこあそび」、すなわち「模倣あそび」が挙げられる。「まねっこあそび」として生まれた遊びは、表象能力や表現能力の発達した2歳児においては、現実にあったことをよりリアルに筋立てて再現する「ごっこあそび」へと変貌する。

保育園の幼児にとって、他人と触れ合う範囲が狭く限定されているため、両親以外の行動では、保育士の行動が「ベスト・プラクティス」となり(ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部, 1995)、幼児は保育士の行動を模倣し成長していくのである。これを、ベンチマーキングの用語で表せば、*Learning the Best* (ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部, 1995)ということになる。Casson (1997)は、上記のような「模倣の合理性」に関して、次の5つの基本原則を提示している。

- ① 類似性の原則: 人は、しばしば類似した状況にある。
- ② 情報格差の原則: 情報の源泉は局所的なので、ある人は同じ状況下にいる他人よりも多くの情報を持っていることがある。
- ③ 公共財の原則: 情報は共有することができ、情報の発見を繰り返すことは費用がかかるので、あまり情報を持っていない人はより情報を持った人から学ぶほうが有利である。
- ④ 顕示原則: 所有している情報は、意思決定に反映される。
- ⑤ 観察の原則: 他人の意思決定は、その情報を獲得するよりも観察する方がしばしば容易である。

本研究では、上記の5つの基本原則の中で、①〜③に注目したい。

幼児と保育士が触れ合っている場面を考えてみると、明らかに「①類似性の原則」を満足している。また、保育士が乳児よりも多くの情報を持っていることも明らかであり、「②情報格差の原則」も満足している。①と②の基本原則が成立する状況で、あまり情報を持っていない幼児は、より多くの情報を持った保育士から学ぶことが有利であるため、「③公共財の原則」に従って、幼児は意識していないが、保育士の行動を模倣することから学ぶのであり、模倣の合理性(Casson, 1997)が成り立つのである。従って保育士は、乳児が模倣し易く、駒井(2004)が指摘する保育の三機能(興味性・幼児性・教育性)を満足するような「ベスト・プ

ラクティス」を意識し、それを支援する教材を提示することが重要である。

本研究では、こうした教材の一つとして、「手作りの日本人形」の有用性を検証したのである。もちろん、手作りの日本人形のみならず、それ以外の人形も優れた教材であるが、模倣を通して幼児は知らず知らずのうちに日本の文化を学んでいく教育性をふまえ、考察してみることにする。

日常生活で、両親や保育士が乳児を抱いたり、あやしたりする行動を見て、幼児がそれを模倣しようとすることは、人間に対する優しさや思いやりを学習することに繋がる。しかし、身体の小さい幼児が両親や保育士と同様に他人を抱いたり、あやしたりすることは不可能であるが、人形を乳児に見立てることで、両親や保育者の行動を模倣することが可能となり、「保育の三機能」における幼児性と興味性(駒井, 2009a,b,c)を満足する。その意味においても、日本人形の利用は「模倣の合理性」の視点に沿った教材となるのである。しかも、人形が手作りであることは、大量生産される市販の人形を抱くよりも個性があり、温かさを感じると同時に、自分でも作ってみたいという感情を引き出す可能性を秘めている。幼児は日本人形であることを特に意識しないだろうが、日本人形と触れ合うことで知らず知らずのうちに日本の文化を学んでいくという効果を生み出し、日本人としてのアイデンティティの形成へと幼児を導くことにもなる。もちろん、外国人や外国文化を排除するような行き過ぎた日本人意識の形成は好ましくないが、日本という母国を愛し、母国に誇りを持つ人間へと成長する過程を推進すべきなのである。本研究結果は、この点において、保育現場における日本人形の有用性を示唆している。

結論

幼児保育における手作り日本人形の利用について検討した。日本人形は日本文化の押しつけや外国文化の排除ではなく、両親や保育者が乳児を抱いたりあやしたりするベスト・プラクティスの模倣(合理的模倣)を通して、他人に対する愛を育むと同時に、日本人としてのアイデンティティの形成に寄与することを示唆している。

謝辞

本研究の実施に協力をいただいたY県I保育園、およびA県K保育園の関係者に深謝します。また、論文の作成にあたり、栗原 久氏(東京福祉大学 教授)の助言を受けたことにも感謝します。

文献

- Casson, M. (1995): *Information and Organization: A New Perspective of the Theory of the Firm*. Oxford University Press, Oxford (手塚公登, 井上 正訳(2002): 情報と組織. アグネ承風社, 東京).
- ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス編集部(1995): ベンチマーキングの理論と実践. ダイヤモンド社, 東京.
- 今川マス子(1989): 乳児保育の基礎と実際. ミネルヴァ書房, 京都.
- 駒井美智子(2004): 保育の質と「保育の三機能」の関係. 日本小児保健学会第51回大会発表論文集 p384-p385.
- 駒井美智子(2009a): 日本における「外国人コミュニティ」の形成. 日本教師教育学会第19回大会論文集 p114-p115.
- 駒井美智子(2009b): 多文化保育に関する研究第1報. 日本小児保健学会第56回発表論文集 p127.
- 駒井美智子(2009c): 多文化保育に関する研究第2報. 日本小児保健学会第56回発表論文集 p153.
- 駒井美智子(2009): 保育内容総論. 大学図書出版, 東京.

Role of Hand-made Japanese Dolls in the Imitation and Development of Small Children

Michiko KOMAI^{*1}, Nori NAKASHIMA^{*1} and Kyoko ASAI^{*2}

*1 Junior College, Tokyo University of Social Welfare (Isesaki Campus),
2020-1 San'o-cho, Isesaki city, Gunma 372-0831, Japan

*2 School of Education, Tokyo University of Social Welfare (Nagoya Campus),
2-13-32 Marunouchi, Naka-ku, Nagoya-city, Aichi 460-0002, Japan

Abstract : In this study, we observed the play of small children using Japanese dolls hand-made by one of authors (Nakajima) for 1 month in two nursery schools (I nursery school in Y prefecture, and K nursery school in A prefecture), and verified its rationality of "Learning the Best" and imitation, efficacy in the child care, and the possibility of formation of identity as Japanese. The present results indicate that the introduction of hand-made Japanese dolls plays an important role in the imitation of child care stuffs by small children and development of children.

(Reprint request should be sent to Michiko Komai)

Key words : Hand-made Japanese dolls, Rationality of imitation, Human environment, Nursery of children, Materials of nursery, Emotional stability, Learning the best

